第27回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業
報告書

27th Los Angeles High School Student Exchange Program

Report

平成 26 年 7 月 29 日～8 月 12 日

July 29 -August 12, 2014

名古屋市市長室国際交流課

International Relations Division, Office of the Mayor
City of Nagoya

目次

■ 目次 ……1
■ 第 27 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業について ……2
■ 第 27 回ロサンゼルス交歓高校生・引率者 ……3
■ ホストファミリーと交歓高校生との組み合わせ ……4
■ 滞在日程 ……5
■ 事前研修会 ……6
■ 名古屋市役所表敬訪問 ……7
■ 思い出の写真 ……8
■ 帰国報告会 ……14
■ 自主研究テーマについて
・伊藤琳花（名古屋市立北高等学校 1 年） ……15
『Cultural differences between L.A. and Nagoya』
・近藤杏子（名古屋市立名東高等学校 2 年） ……20
『Discovery in L.A』
・佐藤匠（名古屋市立名東高等学校 2 年） ……27
『Japanese products in USA』
・森本玲菜（愛知高等学校 1 年） ……32
『American　Education　System』

■ 派遣事業を振り返って ……37
・引率者　吉岡千花（名古屋市立緑高等学校教員）

■第 27 回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業について

名古屋市はロサンゼルス市と昭和 34 年(1959 年)に姉妹都市提携を結びました。姉妹都市交流の一環として、昭和 35 年(1960 年)から両都市が交互に高校生を派遣し、両都市の友好、親善を深めてきました。

平成 26 年(2014 年)は7月 29 日(火)から 8 月 12 日(火)までの約 2 週間、名古屋から高校生4名と引率教員1名を派遣し、ロサンゼルスでのホームスティや現地の学校体験などを通して、市民レベルの交流を深めました。

現地での受入は、ボランティア団体である「ロサンゼルス名古屋姉妹都市委員会(LANSCA)」の協力により実施されました。ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学、二世週祭パレードへの名古屋市代表としての参加のほか、ロサンゼルス市役所への表敬訪問や市内視察などを行うとともに、多くの時間をホストファミリーと過ごしました。

LANSCA とホストファミリーをはじめとする多くの方々のご協力を得て、充実した派遣事業を行うことができました。

■第２７回ロサンゼルス交歓高校生・引率者

交歓高校生

	氏名	ふりがな	性別	学校	学年
1	伊藤　琳花	いとう　りんか	女	名古屋市立北高等学校	1
2	近藤　杏子	こんどう　きょうこ	女	名古屋市立名東高等学校	2
3	佐藤　匠	さとう　たくみ	男	名古屋市立名東高等学校	2
4	森本　玲菜	もりもと　れいな	女	私立愛知高等学校	1

引率者

1	吉岡　千花	よしおか　ちか	女	名古屋市立緑高等学校	教員

（左から）吉岡先生、佐藤匠さん、近藤杏子さん、森本玲菜さん、伊藤琳花さん

■交歓高校生のホストファミリー

交歓高校生

名古屋		ロサンゼルス	
1	伊藤　琳花	Ms.Yihua Xie	イフゥア・シェイ
2	近藤　杏子	Ms.Delilah Bishop	デライラー・ビショップ
3	佐藤　匠	Mr.Dennis Mahaketa	デニス・マハキタ
4	森本　玲菜	Ms.Michelle Gonzalez	ミッシェル・ゴンザレス

引率者

1	吉岡　千花	Ms.Jung Choi	チョン・チェ

平成25年（2013年）に名古屋を訪れたロサンゼルスからの交歓高校生と引率教員がホストファミリーになりました。平成27年（2015年）には、今年ロサンゼルスに派遣された高校生がホストファミリーになります。

■滞在日程

	日付	内容	滞在
1	7 月 29 日　（火）	14:40 セントレア発（UA9738）　→15:50 成田着 17:30 成田発（UA33）→11:50 ロサンゼルス着	ホストファミリー宅
2	7 月 30 日　（水）	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリー宅
3	7 月 31 日　（木）	ハリウッド・ハイランド	ホストファミリー宅
4	8 月 1 日　（金）	ユニバーサル・スタジオ	ホストファミリー宅
5	8 月 2 日　（土）	Cultural Exchange Potluck Party 参加	ホストファミリー宅
6	8 月 3 日　（日）	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリー宅
7	8 月 4 日　（月）	ロサンゼルス芸術鑑賞 ゲッティ美術館	ホストファミリー宅
8	8 月 5 日　（火）	AM　ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学 PM　グリフィスパーク天文台	ホストファミリー宅
9	8 月 6 日　（水）	AM　ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学 PM　サンタモニカ、ベニスビーチ	ホストファミリー宅
10	8 月 7 日　（木）	AM　ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学 PM　Cultural Exchange Party（高校にて）	ホストファミリー宅
11	8 月 8 日　（金）	AM　ロサンゼルス市役所表敬訪問 PM　カリフォルニアサイエンスセンター	ホストファミリー宅
12	8 月 9 日　（土）	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリー宅
13	8 月 10 日　（日）	11:00　名古屋デー参加 16:00　二世週祭パレード参加	ホストファミリー宅
14	8 月 11 日　（月）	11:50 ロサンゼルス発(UA32)→15:00（12 日）成田着	機内泊
15	8 月 12 日　（火）	17:55 成田発（UA9693）→19:05 セントレア着	

■事前研修会

日時：平成２６年7月５日（土）　１０時００分～１６時３０分

場所：キリックス丸の内ビル 地下1階 中会議室
　　名古屋市中区丸の内一丁目１７番１９号

内容：
第1部　10:00～11:45
（1）10:00～10:05　あいさつ
（2）10:05～10:20　派遣生・引率教員自己紹介　（1人3分×5人）
（3）10:20～10:40　当事業の趣旨、概要、日程、出発までのスケジュールの説明
（4）10:40～11:00　旅行手続、海外旅行保険等の説明、ホームスティの心構え、生活上の注意等
（5）11:10～11:30　前回の派遣生からの助言
（6）11:30～11:45　質疑応答

＜昼休憩　11:45～13:00＞　　※保護者、前回派遣生は午前中で解散。

第2部　13:00～16:30
（1）13:00～15:00　英会話研修
（2）15:10～15:30　記念品の配布、割り振り
（3）15:30～16:20　自主学習テーマ、サヨナラパーティーでの出し物、スピーチ等の役割分担決定
（4）16:20～16:30　まとめ、質疑応答

■名古屋市役所表敬訪問

１　日　時　平成２６年７月２３日（水）１０：００～１０：３０

２　場　所　市役所本庁舎４階　貴賓室

３　対応者　名古屋市市長室長　　二神　望
名古屋市市長室次長　磯村　仁
市長室国際交流課長　近藤　世津子
教育委員会指導室指導主事　久木田　隆宏

■思い出の写真

ロサンゼルス空港での歓迎

ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学

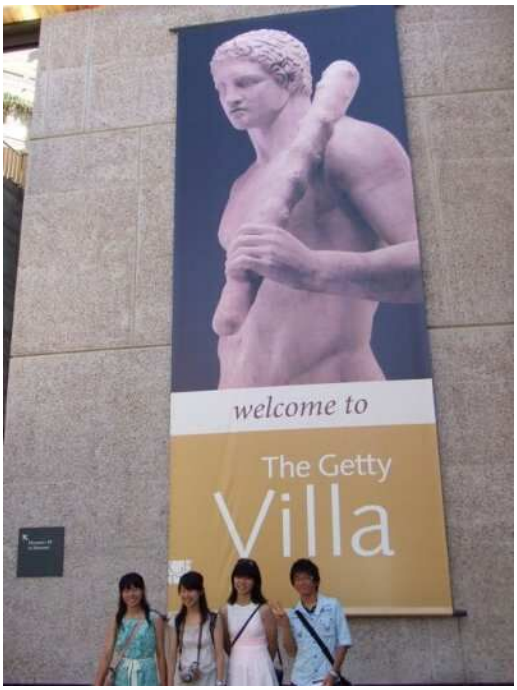
ロサンゼルス見学・ＬＡＮＳＣＡとの交流

ハリウッド・ハイランド

記念撮影

ユニバーサルスタジオにて

LANSCA 委員宅にて



ゲッティ美術館にて

グリフィスパーク天文台

グリフィスパーク天文台
パネル前にて

サンタモニカにて

ロサンゼルス市役所訪問

トム・ラボンジロサンゼルス市議会議員からの記念状と

名古屋デー

ロサンゼルス市内のショッピン
グモール「The Grove」にて

二世週パレードへの参加

ロサンゼルス空港でのお別れ

■帰国報告会

１　日　時　平成２６年８月２７日（水）１０：００～１０：３０

２　場　所　市役所本庁舎４階　貴賓室

３　対応者　名古屋市市長室長　　二神　望
名古屋市市長室次長　磯村　仁
市長室国際交流課長　近藤　世津子
教育委員会指導室指導主事　久木田　隆宏

■自主研究テーマについて

Cultural differences between L.A. and Nagoya

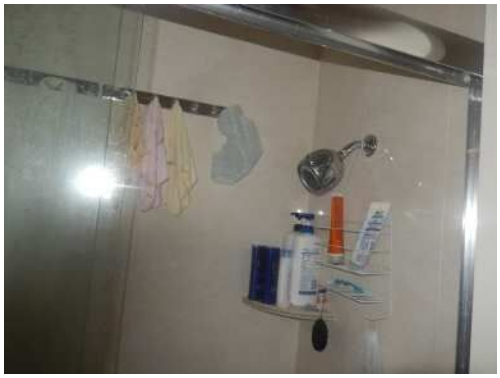
名古屋市立北高等学校　伊藤琳花

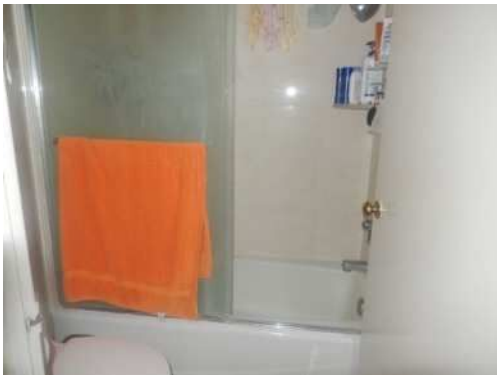
私たちは、二週間ロサンゼルスで暮らす高校生の家でホストして頂きました。その二週間でたくさんのことを感じ、また、たくさんのことを学ぶことが出来ました。私は特に文化やものの捉え方などの違いについて、とても興味を持ちました。

１、住居について

・街並みを見ると、アパートやマンションなどは少なく、ほとんどが一戸建てでした。アメリカ映画で見るような広い庭付きの立派な家もいくつか目にしました。

・日本ではトイレと浴槽は別々になっていることが一般的ですが、アメリカではトイレとシャワールームが同じ空間に設置されていました。カーテンなどで仕切ることが出来ますが、最初の慣れない間はとても使いづらかったです。基本的に湯船には浸からず、シャワーのみで済ませます。





２、食事について

＜朝食＞

・フルーツは毎日必ず食べさせて頂きました。アメリカでは、日本と比べて果物の値段がとても安いためだそうです。私のホストシスターであるイフゥアは、日本の果物は美味しいが少し高いと言っていました。私はそれが当たり前だと思っていたのでその意見を聞き驚きました。フルーツの味ですが、サクランボやブドウはとても甘いのですがリンゴはとても固く、酸味が強いように感じました。

・菓子パンをメインで食べることが多かったです。日本で売っている菓子パンとは違い、甘い香りがして実際に味も甘かったです。また中身もココナッツクリームや、コーンやソーセージなどが入っており、とにかく味が強かったです。常温では食べず、一度温めてから、切ってみんなで分けて食べました。

・汁物もよく朝食で食べました。オートミールやラーメン、春雨など日本でもお馴染みの料理を頂き、どれもとても美味しかったです。ラーメンや春雨にはスパムという肉が入っていましたが、塩味が強く脂分も多いと感じました。日本人が食べ慣れていると思われる味ではありませんでした。

＜昼食＞

私たちは毎日外へ出かけたので、外食を食べる機会が多かったです。ピザやパスタ、ファストフードなどを食べました。

＜夕食＞

私のホストファミリーは中国人だったので、中華料理を多く食べました。日本で食べる中華料理とは大分違い、油分が多く辛い味付けでした。

私は、アメリカには米がないものだと思っていましたが、スーパーマーケットではタイ米が売られていましたし、家には日本製品の炊飯器がありました。

＜間食＞

私のホストファミリーの家はチャイナタウンに近く、何度かチャイナタウンで、BOBA（日本でいうタピオカ）を楽しみました。中国でとても人気のある飲み物だそうで、現地の多くの高校生も好んで飲んでいるように思いました。

また、ロサンゼルス市内のショッピングモールでチーズケーキを食べました。想像していたのと違い、甘みはそれほどなくとても食べやすかったのですが、一切れが大きくホストシスターと２人で分けても、多いなと感じました。

３、習慣について

一番大きな違いを感じたのは、風呂についてです。日本では大多数が毎日髪や体を洗い、あたたかい湯船につかってリラックスして一日の疲れをとります。しかしアメリカでは何日かに一度しか髪を洗わず、また湯船につかることなど全くありません。それで体の汚れが取れるのか、と疑問に思いました。しかしアメリカの人も逆に日本の風呂文化に疑問を持っていたようで、「湯船につかるのは体の汚れを落とすためではないのか。それならシャワーでもいいのでは。」などの

声をききました。私にとって風呂は大切で、毎日あたたかいお湯に浸かり毎日髪を洗うということが当たり前だったので、その質問を受けた時はショックを受けました。

また、アメリカの学生は、一人一台はパソコンを持っており、私よりも小さな中学生くらいの子供が当たり前のように使いこなしているのを見たときは大きな衝撃を受けました。

４、チップについて

日本ではあまり見かけない『チップ』ですが、ほかの国々では食事をした店などに、その代金とは別でチップを渡します。私たちはハリウッドにも行きましたが、そこでスパイダーマンなどのコスチュームを身に纏った人達が一緒に記念撮影をしてくれるというので、写真を撮ってもらったら後で高額なチップを要求されました。そこについて私たちは気を付けなければならないなと思いました。

５、学校生活について

私たちは、３日間という短い期間ではありますが Downtown Magnets High School に体験入学させていただきました。アメリカの高校にはとても興味があった私にとって、この３日間ではたくさんのことを感じることが出来ました。この高校では、メキシカンやアジア系の生徒や先生が多いように思われました。授業の形態などの違いも実際に肌で感じることが出来ました。

日本の学校では、生徒約４０名に１つの教室が与えられ、そこで教科の先生方が授業を展開するといったシステムですが、アメリカでは生徒の「教室」といったものは無く、授業を受けるときは教科の先生の名前が書かれた教室に移動し、そこで受けるといった形でした。

↑このように教室の壁に先生の名前が貼ってあります。

また、日本の大体の高等学校では禁止されている髪のカラーリングやパーマ、またピアスやその他のアクセサリーを身に着けている生徒は少なくありませんでした。服装も、制服のようなものは無く、皆それぞれの着たい服を着ており、個性が出ているなあと思いました。この高校では生徒会の活動が活発で、生徒会に入っている生徒たちはお揃いのＴシャツを着ていました。

現地の高校生たちは、日本の物や文化についてとても興味を持っていました。「こんにちは。」などと日本語であいさつをしてくれたり、日本の伝統的な服について逆に教わったりしました。また、私たちが浴衣を着たときは特に感動しているように感じられました。日本のアニメや漫画が好きという生徒も多く、日本文化がこれほどまで浸透していることにうれしく思いました。

↑ロサンゼルス市内の図書館。日本でも人気のあるマンガが多く揃っていた。

日本では当たり前にある電子辞書ひとつにしても、現地の学生には小さいコンピューターや任天堂ＤＳに見えたようです。

６、さいごに

私は、今回が初の海外で、同じ家に日本人がいないということもありホストファミリーときちんとコミュニケーションがとれるかとても不安でした。しかし、私のホストシスターであるイフゥアは私の拙い英語を熱心に聞き、理解しようとしてくれました。また、夜はイフゥアが私に英語と中国語を教えてくれて、私は日本語を教えました。イフゥアは日本にとても関心を持っていて、日本語を熱心に勉強していましたし、将来は日本で英語の先生をしたい、と言ってくれた時はとてもうれしかったです。二週間はとても短かったのですが、私はイフゥアと本当の姉妹のように仲の良い関係になることができました。二人で将来の夢について話したり、イフゥアのおすすめの日本のアニメをみたりもしました。ロサンゼルスという地で不安いっぱいの私でしたが、イフゥアに出会えて本当に良かったです。ホストファミリーもみんな親切で、色々なことを教えていただきました。家の中には中国の家具もあり、やはりロサンゼルスには移民が多いのだなということを改めて感じました。

アメリカ人はおおざっぱだと言われがちです。私もそれは感じましたが、相手のことをちゃんと見ているということも感じました。バスの中で私が隣に座っていた知らない女性の肩をかりて寝てしまったときも、その女性は、大丈夫よ、とにっこり笑って私の体調を心配してくれました。また、ＣＤショップで男の人にぶつかったとき、その男性は私の目を見て、ごめんね、と言ってくれました。他にも私がそう思った要因はたくさんありました。

私は今回の派遣で、今まで知らなかったアメリカの内面を感じることができました。これは本当に貴重な経験になったと思います。たくさんの民族が入り混じって暮らし、また多様な文化が存在するロサンゼルスでは本当にたくさんのことを学ぶことが出来ました。

二週間、本当にあっという間に過ぎてしまいましたがたくさんの人にお世話になりました。本当にありがとうございました。

Discovery in L.A.

名古屋市立名東高等学校　２年　近藤杏子

私はこの名古屋市ロサンゼルス交歓高校生派遣プログラムの２週間で、自分自身の目で本当のアメリカを見る事が出来たと思います。アメリカでは実は、まだまだ日本のことが知られていないということにもすごく驚きましたが、名古屋についてはもっと知っている人が少なかったです。今回、私が目標としていた「沢山の人と話し、コミュニケーションを通してお互いの国のことを知る」ということを通して、私が名古屋や日本のことについて教えたり、話したりすることはもちろんのことアメリカ文化についてもたくさん教えていただきました。そのおかげで私は、アメリカのおもしろい文化を知ることが出来たので、もっと多くの日本人の方にもシェアしたいと考え、今回の研究テーマにしました。

★☆生活☆★

＊湿気はほとんどなくとても過ごしやすいと思いました。名古屋よりだいぶカラッとしていて乾燥している感じです。ただ、朝と夜は想像しているより冷え込みました。真夏にロサンゼルスに行った私たちでしたが、長袖のパーカーをはおったり、スキニ―デニムパンツをはいたりしてちょうど良いぐらいの気候でした。

＊アメリカは沢山の移民が多いのはもともと知っていましたが、やはり頭の中では金髪の鼻の高い、彫りが深い欧米人がたくさんいるのだと勘違いしていました。しかし、実際は違っていてロサンゼルス市内は特に、アジアやメキシコ系の移民の方が多く住んでいました。街中に出ても、スペイン語や中国語が多く溢れていて驚きました。彼らは独自のコミュニティーをもっていて、家族と話す時は母国語を使い、外に出ると英語を使うという生活をしていました。

＊ＬＡ地域だけ夏の夜に公園でイベントがたくさん開かれていました。夜の１０時を過ぎても小学生ぐらいの子供たちが遊具で遊んでいたり、お母さんたちは無料でズンバのレッスンを受けていたりしました。また、スポーツの試合が行われており Free drink や Free food も充実していました。これは、日中は炎天下で暑いロサンゼルスでは長時間、子供たちが外で遊ぶのは危険だということで行われている取り組みだそうです。

＊ドジャースタジアムなど、スポーツ観戦ではホームランがでるとみんなで立って応援していました。日本では、後ろの席の人を考えて立って応援をしたりすることはあまりないと思います。しかし、アメリカでは後ろの人のことは気にしないで思ったままに全身を使って応援をする人が多くとてもびっくりしました。さらに、歓声は大きく耳がいたくなるほどでした。大胆に思ったままを表現していて、素敵だなと思いました。

＊家族との時間をとても大切にしているということが分かりました。日本では、私達高校生ぐらいの年齢になると家族より、友達や恋人と過ごす時間が多くなっていると思います。しかし、アメリカでは家族との絆が深く、家族で一緒に映画を見たり、ショッピングをしたり家族と過ごす時間をとても大切にしているということが見えました。

＊アメリカには手を洗うという習慣があまりないようです。もちろん、トイレの後、手を洗っていますが外から帰ってきた後の手洗いうがいをしている姿を見ませんでした。その代わりに、サニタイザーとよばれる消毒液の普及率は高く、さまざまな場面で使っている光景をよく見ました。このサニタイザーの種類はとても豊富で、ピーチなどのフルーツの香りやラベンダーなどの花の香りつきのもの、色が付いているもの、小型になっていて持ち運びが便利になっているものなど本当にさまざまな種類がありました。最近では、日本でも人気になっていて鞄につけている人やお店で見かけることも多くなってきました。私も、以前からこのように香りつきの持ち運びが可能なサニタイザーの存在を知っていたのでホストファミリーにお願いしてショップまで連れて行っていただきたくさん購入してアメリカ土産にしました。

＊アメリカはすべてのものが大きかったです。食事の量はもちろんアメリカンサイズ（食事のトピックで詳しく書いてあります。）でとても大きく、机や洗面所、キッチンのシンクまでが高かったです。机などの高さは、ロサンゼルスに滞在している間は何も思うことがなかったのですが、日本に帰ってきて洗面所やキッチンを使う時にじわじわと感じました。家具の大きさは世界共通だと思っていましたが、実はそうではなくその国の人々の身長や体型に合わせて家具が出来ているのだなと思いました。

＊洗濯機については、日本のようにドラム式が普及しているようですが、乾燥機は別になっていて洗濯機の上にあるという感じでした。乾燥機能付き洗濯機は別々になっているものに比べて高いようで、ホストファミリーはいちいち入れ替えなくていい日本のような乾燥機能付きの洗濯機が欲しいと言っていました。

＊アメリカでは、どこかで人と目があったら笑顔でかえすという習慣があるようです。これは、日本では絶対に見られない光景だと思いました。日本では、人と目があっても知っている人じゃない限りただ無視をするか、目線をそらす人が多いでしょう。ただ、笑顔で返すというだけのことですがアメリカ人の優しさや、フレンドリーさを感じることが出来ました。

★☆学校☆★

＊今回は新入生のためのオリエンテーションだったので、アメリカの授業を体験することがありませんでしたが、ホストシスターを中心にたくさん教えていただきました。最初は授業科目についてです。アメリカの高校生は一人一人自分自身の時間割を持っていてそれにそって動きます。さらに一人一人にカウンセラーの方がついていて科目などについて相談できるようになっています。自分の能力を伸ばすような科目

や、自分の将来したいことに近付けるような科目が非常に多く実用的だと感じました。また、始まる時間が決められていないので自分の最初の授業に間に合うように学校に行けばよいというシステムで、さらに帰る時間も人によってさまざまだそうです。教室も日本のように固定されておらず、先生が教室を持ち、それによって生徒が動くようになっていました。だから生徒は廊下に設置されているロッカーに教科書などの用具を入れているようでした。

＊学校の行事や生活全体の運営は、ASB(Associated Student Body)と呼ばれる生徒会を中心に行われていてASBのメンバーは約４０人いるようです。私がちょうどDown Town Magnets High Schoolでは新入生のためのオリエンテーションが行われており、このメンバーを中心に学校の規則や授業について、今後の予定などが新入生たちに説明されていました。この行動を見て私は、アメリカの高校生たち自身が高校を作って、後輩達に伝統を受け継いでいるようでカッコイイと思いました。日本でももちろん、生徒会は存在しますがアメリカのように生徒達が中心となって物事を進めていくというより、先生方が行ってしまっているように思います。

＊学校で着る服装については、制服はなく（一部の学校にはあるようですが、おしゃれではないようで好きだという人はほとんどいないようです。）自分が着たい服を着ることが出来ます。ただ、短すぎるズボンやショート丈のＴシャツ、オープントゥのサンダルは禁止されています。しかし、髪の毛を染めることやメイク、アクセサリーを身につけることは禁止されていませんでした。

＊これはDown Town Magnets High Schoolのみのことかもしれませんが、学校には１つも窓がありませんでした。このことはロサンゼルス市内でも有名なことのようでした。窓がないので空気の入れ替えをすることが出来ず、さらには冷房を入れたらずっと寒いまま、入れなかったらずっと暑いままということでした。それではなぜ、学校に１つも窓がないのでしょうか？それは、昔このDown Town Magnets High Schoolは倉庫だったものをリサイクルして作られたからです。ロサンゼルス市内にはこの学校だけでなく、他にも昔、倉庫や工場だったという学校が数多くあるようです。アメリカは広大な土地がたくさんありますが、人が多くいて集まりやすい便利な都会に学校を作ろうと思ったら土地がありません。さらに高いはずです。だから、倉庫や工場をリサイクルして使っているのだと思いました。

★☆食事☆★

＊アメリカではセルフサービスの多さにとても驚きましたが、一番驚いたのは食事のセルフサービスです。ドジャースタジアムへメジャーリーグの観戦へいったときのこと、私はあまりお腹がすいていなかったのでガーリックチップス（ガーリックの味

付けのフライドポテト）を注文しました。ホストファザーは普通のフライドポテトを注文し会計がおわると、同様に会計をすました人達が同じようにフライドポテトをもって何かしていたのです。何をしているのか気になって近くへ行ってみてみると、そこにはなんと、からしやケチャップのセルフサービスがあったのです。それもただの袋に入っているものではなく、ソフトクリームを機械から出すようなマシーンなのです。自分の好きなだけからしやケチャップをつけられるマシーンなのです。これは本当に驚きました。さすがアメリカだと感じた瞬間でした。また、他にもフローズンヨーグルト専門店へ行ったときのことです。お店に入るとすぐにアイスを入れるためのカップを受け取りました。これまた、セルフサービスで好きなアイスを好きなだけ入れることが出来るのです。それも様々な味の種類があるのはもちろんのこと、トッピングのグミやナタデココ、チョコチップなど種類も豊富で感動しました。どうやってお会計をするのかというと量りを利用します。自分の好きなものを好きなだけ入れることができるという仕組みはすごく素敵だと思うのと同時に日本にもぜひ取り入れてほしい１つだと思いました。

＊日本では、出された分の食事はよほど体調が悪くない限り食べるのがマナーです。しかし、アメリカでは自分が嫌いなもの、食べられないものは無理に食べる必要がなく、残してしまっても良いのです。しかも、そのゴミは思いっきり捨てられてしまいます。その文化に私はすごく驚きました。ホストファミリーには何回も（ほぼ毎日）「嫌いなら食べなくていいよ。」と言われました。でも、私はせっかく私のために作ってくれているのにここで残したら申し訳ないと思いお腹がいっぱいでない限りすべて食べました。ホストファミリーが出してくれた食事はどれも私の口にあっており、食べられないものはなかったので良かったのですが、「きらいなものは無理に食べる必要もないし、無理して病気になるなら残してくれた方がいい。」といわれたとき、とてもアメリカらしいはっきりしている文化だなと思いました。

★☆交通機関☆★

＊ロサンゼルス市内には、日本の Suica や Manaca のように Tap と呼ばれる IC カード乗車券がありました。切符はありません。システムはほとんど日本のものと同じ

ですが、Tap はクレジットカードでの購入が可能でした。改札は遊園地のゲートのようなもので Tap をタッチしてから入ります。しかし、出るときは Tap をタッチしなくてもよかったです。

＊日本の高校生の学校への交通手段と言えば、そう、主に地下鉄やバスだと思います。しかし、ロサンゼルスなどアメリカにはもちろん日本のようなバスや地下鉄がありますが、基本的に親の車で学校へ登校する人が多いようです。

＊ロサンゼルス市内の地下鉄の中では、静かにする必要がありません。私が地下鉄に乗った時、知らない人同士で仲良く話しているという光景をよく見ました。また、電車やバス内はペットの持ち込みが可能でとても驚きました。さらに、自転車の持ち込みもでき、自転車のためのスペースもあり、大変驚きました。

★☆その他☆★

＊これは個人的に私が一番驚いてしまったことですが、アメリカでは日本で大人気の「ダッフィー」が全くと言っていいほど人気がありませんでした。ホストファミリーと過ごすある日、私はアメリカにきたら本場のディズニーへずっと行ってみたいと思っていたのでリクエストして連れて行ってもらいました。お土産屋さんを見て回っている時に、私は棚の一番下に何もないように置かれているダッフィーを見つけてしまったのです。日本ではダッフィーが棚の一番下においてあるなんてまずないし、見られないことでしょう。だからこそ、私はこの光景に衝撃を受けたのです。私はびっくりしすぎて、ホストシスターにアメリカではダッフィーは人気がないのかと聞いてみると、こんな人形は見たことがない、たぶん誰も知らないよ、と言われてしまいました。やはり、アメリカと日本の文化は違うのだと思い知らされた瞬間でした。

ロサンゼルス派遣を振り返って

この２週間のロサンゼルス派遣を振り返ってみると、毎日新しい発見、人との出会いに恵まれ自分自身を成長させてくれた、充実したものだったと思います。アメリカ文化について学ぶことが多かったのはもちろんのこと、日本文化についても改めて考え直すことが多く、日本国民としてもっと色々なことを知っておくべきだと考えさせ

られました。さらに、このプログラムで大切な人もたくさん増えました。忘れることのできない経験、思い出もたくさん増えました。もし、この派遣プログラムに参加することができなければ、決して得ることはできなかったでしょう。そして、私の国際的視野も広がることはなかったでしょう。そんなことを考えたら、感謝してもしきれません。この派遣プログラムに関わってくださった全ての人に感謝したいと思います。素敵な出会いと思い出をたくさんありがとうございました。絶対に忘れません。

Japanese products in USA

～ロサンゼルスでの現地取材を通して～

名古屋市立名東高等学校２年　佐藤 匠

～はじめに～

現在、世界では グローバル化が進んでおり、国と国との間をたくさんの人々が移動するとともに、様々な製品が輸出入されています。その中でアメリカ合衆国（以下米国と略）は、日本の貿易の大切な相手国の一つであり、米国には日本の製品が多く輸出されています。

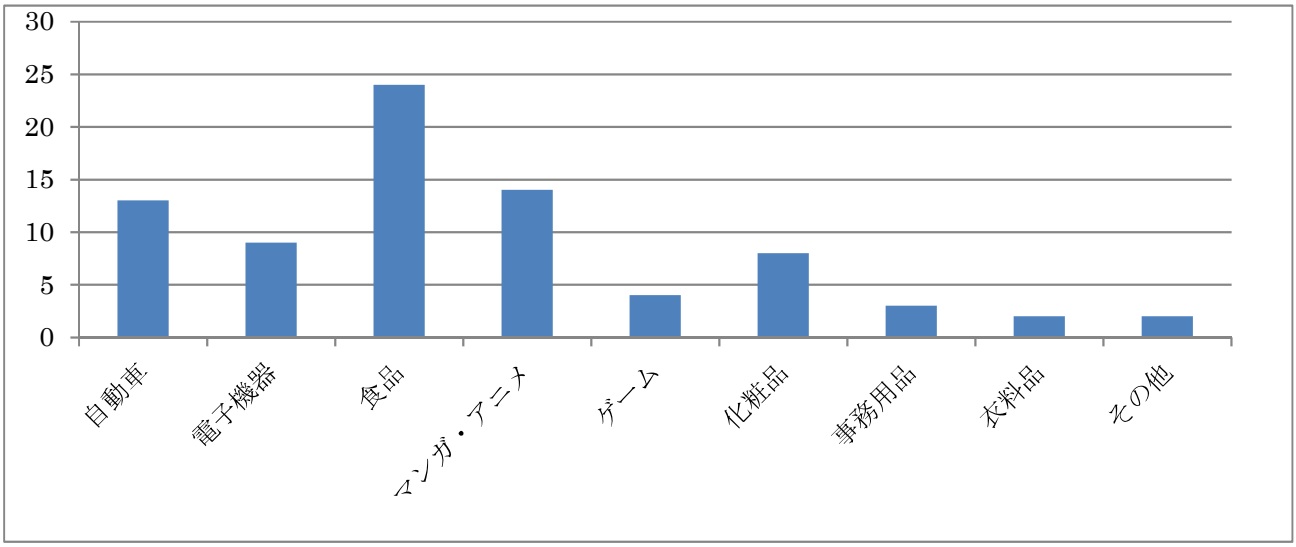
そこで、現在米国の若い世代の人たちが日本製品をどう見ているか、今後日本は経済にどう取り組むべきかなどを検証するため、今回以下のようなアンケートを作成し、現地の高校生４１名に協力していただきました。

Hello! My name is Takumi.
I'm a high school student from Nagoya city, Japan.
Please feel free to comment on Japanese Products in the questionnaire below.

①What Japanese products do you see in your life?
②What's the best Japanese product you think?
③What's the good point of Japanese products?
④What's the bad point of Japanese products?
⑤What Japanese products do you wish to have now?

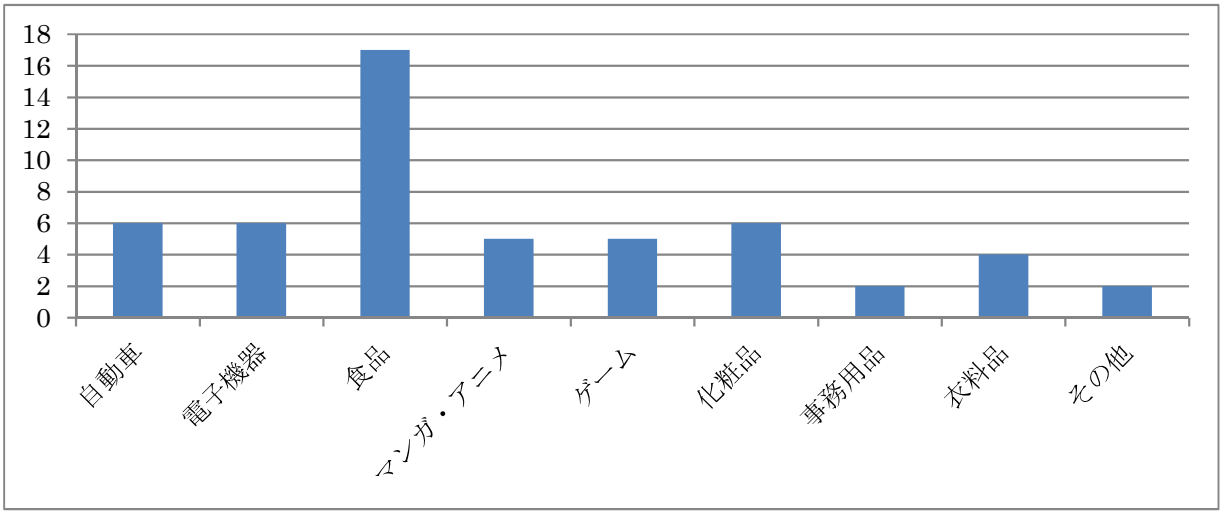
このアンケートをもとに、それぞれの項目ごとにグラフにまとめ、解析しました。

① 生活の中でどんな日本製品を目にしますか？



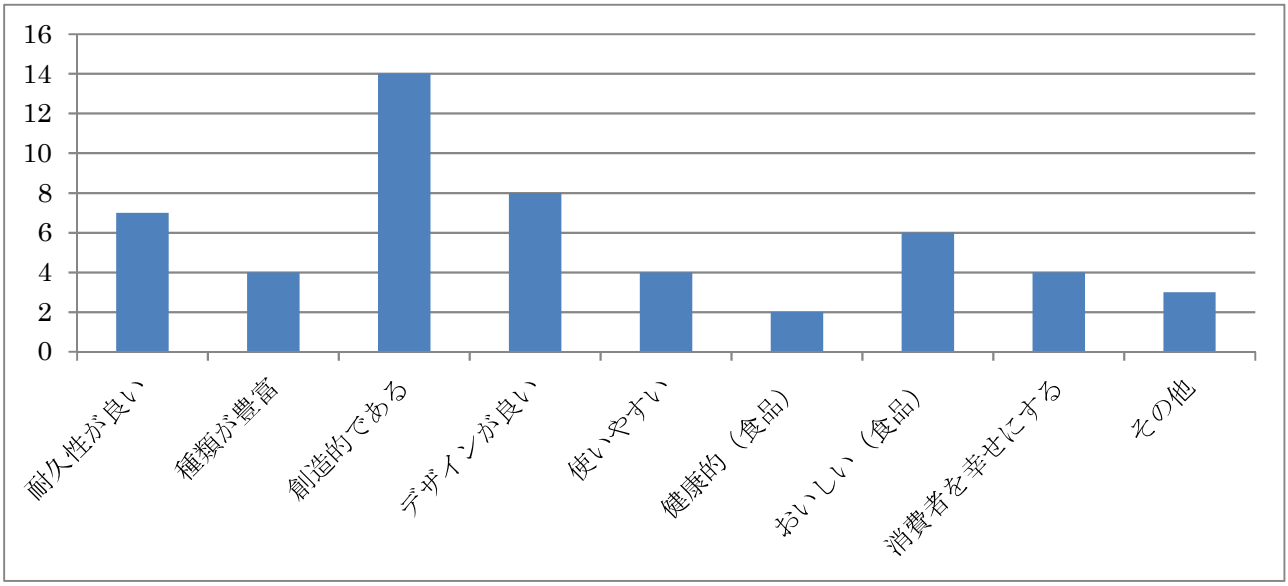
この項目では、日本メーカーが有名な「自動車」や「電子機器」がトップを占めるであろうと予想していましたが、結果では、「食品」が圧倒的にトップとなり、次いで「マンガ・アニメ」、「自動車」、「電子機器」となりました。しかし、私は実際に現地でたくさんの日本車や日本メーカーの電子機器も目にしました。これはひょっとすると、これらの日本製品は、米国ではもうすでに一般的なものとして定着しているからではないでしょうか。

② 一番良いと思う日本製品は何ですか？



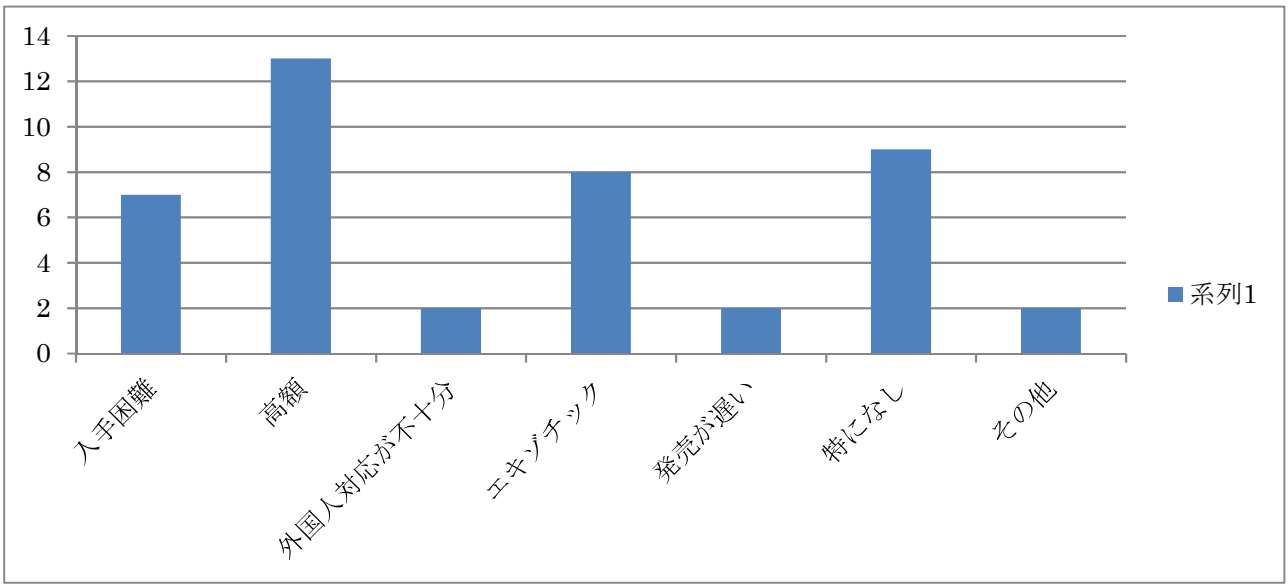
この項目でも、「食品」がトップを占めました。その他は、ほぼ均一という結果になりました。やはり、食品が強い注目を浴びているようです。確かに、現地で日本の食品を多く目にしました。実際に食べることも何度かありました。日本食がこれほど知られているとは、衝撃的でした。

③ 日本製品の長所は何だと思いますか？



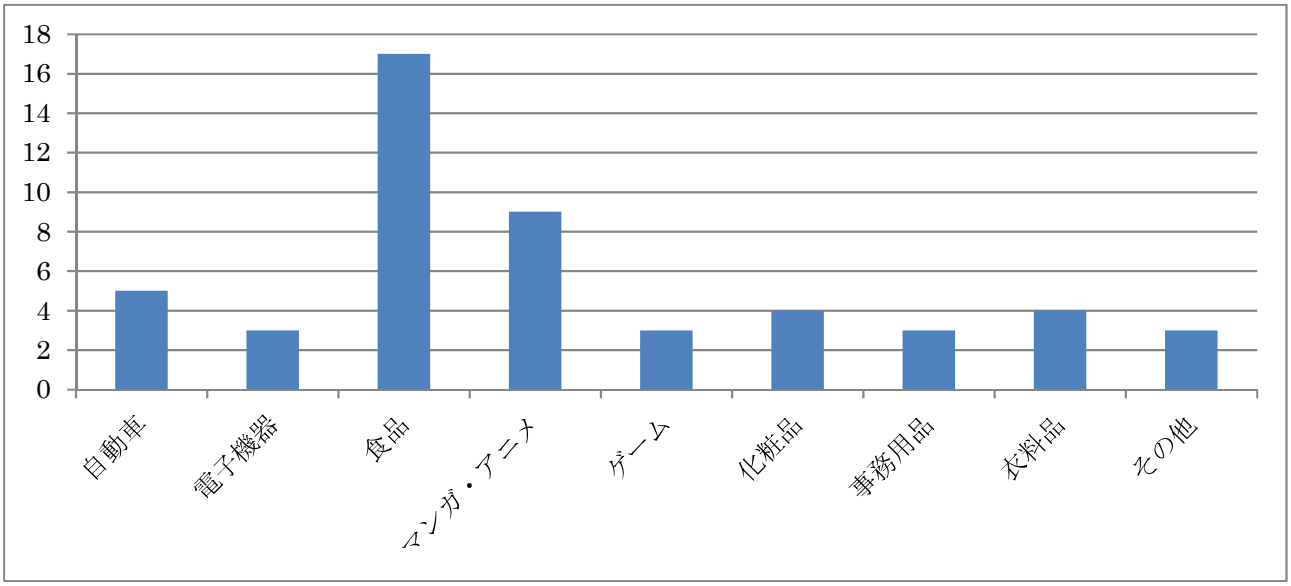
日本製品の長所としては、「創造的である」という回答が多数を占めました。日本製品は昔からの伝統品も含め、とても工夫されてつくられているように思います。「耐久性が良い」という理由もこれに関係しているのでしょう。また、食品も、出汁をとるなど、手間ひまかけてつくられます。そして、「健康的」という意見もありましたが、私も現地で、米国の食べ物は日本のものに比べて高カロリーで、味付けが濃いと感じました。近年、肥満が問題視されている米国では、健康的な食事が注目されているそうです。日本食も、その一つとして認められているのではないでしょうか。

④ 日本製品の短所は何だと思いますか？



知り合いの外国人が「日本製品は高い」と言っているのを聞いたことがありますが、やはり、「高額」という意見が最多でした。ただ、アンケートで「その値段だけの価値がしっかりある」と言っている方もいました。また、エキゾチックという意見もありました。日本独特の美意識を短所ととらえる人たちも多いようです。その一方で、「特にない」という回答が意外に多く、日本文化が‘異国的で受け入れ難い’という感覚ばかりではないようです。

⑤ 今欲しい日本製品は何ですか？



この項目でも、食品が圧倒的にトップとなりました。具体的には、寿司やスナック菓子などが回答にありました。寿司が有名なのは知っていましたが、日本のスナック菓子がこれほど有名だとは予想していませんでした。実際に現地の店で、チョコレートやクッキーなど多くの種類の日本ブランドの菓子が販売されているのを見て驚きました。

～おわりに～

今回のアンケートで、日本食が、伝統的なものをはじめスナック菓子などまで、とても人気が高くなっているということがわかりました。今後日本は、食品というジャンルでさらに海外進出することで、経済や貿易が発展していくものと期待されます。私たちの国の技術が米国の人たちの生活に貢献しているということは、とてもうれしいことであり、誇り高いことだと思います。また、米国の人たちが、これらの日本製品に対して、様々な考え方を持っているということも知ることができました。工夫されていたり手間がかかっていたりするなどの日本製品ならではの良さが認められていることがわかり、反対に受け入れ難いこととして「高額」という回答が多かったことから、創造性を劣らせることなくコストを抑えることが、今後海外の人たちに日本製品をさらに多くの機会に利用してもらうための一つの課題ではないかと考えられます。

私は、今回初めて米国を訪れました。現地で見るものすべてが新鮮でした。この２週間の滞在で、多くの米国の文化に触れるとともに、私も現地の人たちに日本での生活や文化を伝えることができました。また、今まで勉強してきた英語を使って、実際に現地の方々とコミュニケーションをとることができ、改めて異文化交流の楽しさを感じました。今回の経験は、将来に向けての視野を広げる大切な機会であったと思います。今後も、英語をはじめとする外国語、世界の国々の文化や歴史、国同士のつながりなどの学習を通して国際感覚を身に着け、様々な立場から物事を見て、考えることができるように努めたいと思います。

American Education System

愛知高等学校１年　森本　玲菜

１．　はじめに

私は以前から、日本の学生は海外の学生よりたくさん勉強しているはずなのに、大人になった時、学力面で外国人より勝っているわけではないことを不思議に思っていた。

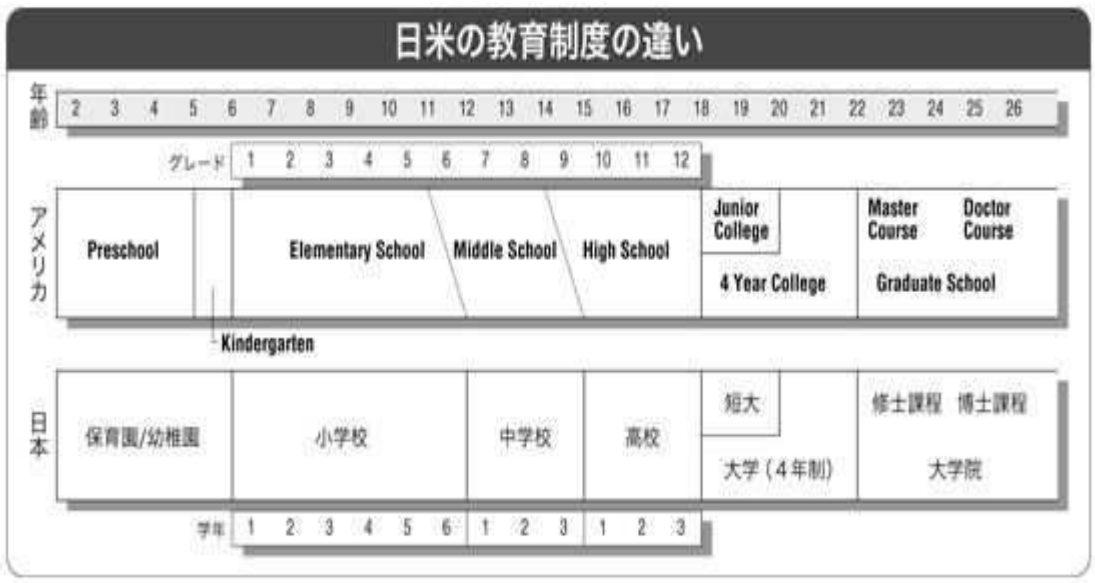
今回、ホストマザーの専門が児童教育であったため、教育に関して色々なことを議論でき、また、ダウンタウンマグネットハイスクールに体験入学させてもらい、アメリカの高校の様子を見ることができた。さらに、南カリフォルニア大学へ連れて行ってもらったことで、日本の大学との雰囲気の違いを感じることができ、アメリカへ留学したいという気持ちが強くなった。

そこで、アメリカの教育制度や教科書について調べることにした。

また、私は、アメリカは厳しいと思っているが、多くの友達が「アメリカ＝自由」と思っていることに気付いたので、その点も合せて考えてみた。

２．アメリカの教育

日本では国が教育のガイドラインを作っているのに対して、アメリカでは各州が教育の権限を持っており、以下の表のように Preschool, Kindergarten, Elementary school, Middle school, High school, 4years collage, Graduate school がある。日本では総合的な知識が重視され、国語や社会、理科のテストなどでも広範囲な内容を記憶しているかどうか問われるが、アメリカでは選択科目が早くから有ることからも分かるように専門的な知識が重視されるようである。



（表、アメリカ生活大辞典より）

義務教育以前（０～４歳頃）

以前は、義務教育前に１～２年間 Pre-school に通う子が多かったようだが、ホストマザーによると、より小さいうちから教育を受けることが大切だという考えで、最近は１～３歳の子が通う Mamie and Me というプログラムがあるそうだ。私ははじめ学校の様なところを想像し、そんなに小さなうちから教育を受けさせるなんて…と驚いたが、一回一時間、週に二回程度で遊び中心だと聞き、それなら子供にとって良いのではと思った。私は父の仕事のため、ミシガン州で Pre-school に一年間通ったが、そこでは毎日 Show　and Tell が行われていた。それは、ぬいぐるみや石など自分の好きなものを持って行き、皆の前でそれについて発表する。自分の意見をしっかり持って、恥ずかしがらずに、順序立てて主張する練習だったように思う。小さいころからこのようにプレゼンテーションの練習をするのはアメリカらしいと思う。

義務教育（５～１７歳頃）

Kindergarten からを義務教育と考え、k-12 と言う。学年は１２までの通し番号で数える。Elementary school は全ての科目を一人の教師が教えるのに対し、Middle school 以降はそれぞれの専門の教師が教える。アメリカでは日本より早くから科目の選択をするそうだ。５－３－４制、６－３－３制、４－４－４制があり、公立の学校に行く場合、文具、教科書代など教育費全てが地方税や州税でまかなわれる。

Kindergarten

カリフォルニア州では、５歳から義務教育が始まる。はじめの一年を

Kindergarten と言い、遊びを中心に授業の受け方、宿題のやり方、集団での過ごし方を学ぶ。

Elementary school

1st grade、2nd grade…と続いていく。クラスは 1st grade から習熟度別で分けられる。休み時間などに悪いことをすると先生からイエローカードを出され、何度かイエローカードを出されるとレッドカードとなり、親が学校に呼び出されたりするそうだ。

Middle school

成績表や連絡は必ず保護者に届くよう、保護者宛に郵便や E メールで届く学校が多い。成績は絶対評価で、ABCDF の五段階で表され F は落第となる。日本の中学で落第はないので、この点は日本より厳しい。日本のように部活動が有るが、アメリカの部活動はシーズン制で一年に何種類ものスポーツをする事が出来る。

High school

日本の高校にあたる。選択できる科目の幅が広いが、日本の中学校から高校１年生程度までの内容で、日本ほど数学には重点を置いていない。必要な単位を取得すれば、１２年生修了前に卒業することも可能である。卒業前にボランティア活動を義務とすることがある。その影響か、１９歳のホストシスターは貧しい人に食べ物を配るボランティア活動をしており、私もその活動に連れて行ってもらった。皆がボランティア活動をすることによって、税金を使わずに国を良くすることができることを学んだ。しかし、私たち日本人はまずボランティアをする心と時間の余裕を持たなければならないのかもしれない。

義務教育後（１７歳以降）

高校を卒業した者の約６０％が College や University などに進む。入試は日本のような個別入学試験ではなく、高校での成績、数学的能力と言語的能力を測定する適性検査型試験の SAT の成績、活動履歴、推薦状が参照されることが多い。卒業が難しいので、大学生はかなり勉強しなければならないようだ。日本との違いは、途中休学して大学に戻ったり、米軍に在籍して学費援助を受けたりする生徒がいることだ。学期ごとに成績がつき、単位を取得し、取得した単位によって学年が決まる。四年間の学士課程のプログラムで５０％以上の人が最低一度は専攻を変えるらしい。早い時期から志望校や学部を決め、入学後学部を変えにくい日本と違い、アメリカでは本当に自分がなりたい仕事のための勉強ができると思った。また、名古屋の大学ではほとんど外国人を見かけないが、南カリフォルニア大学には色々な人種の生徒が沢山いて驚かされた。

３．　教科書について

アメリカには教科書検定が無く、だれでも自由に教科書を発行することができる。教科書は無償・貸与制となっていて、自宅に持ち帰ってもよいが、紛失したりひどく汚すと弁償しなくてはならないとホストシスターに教えてもらった。
また、教科書は学習に必要な知識情報や学び方を配慮して作られているため、生徒は教科書を読めば自分一人でも勉強できるようになっている。そのため、Home School が可能だ。

４．　結論

日本は皆がほとんど同じ内容の教科書を使い、とても似た条件で長時間勉強するので、皆が広い知識を持っている。アメリカは専門性を重視しているので、皆

が広い知識を持っているわけではないが、専門性にたけ、大学でかなり勉強するので、専門分野で優れた人がいる。また、教育で日本は知識量、アメリカは考える力をはぐくむ。つまり、それぞれ違った意味で優れているのだ。

アメリカが自由か厳しいかという事に関しては、アメリカは多民族であり、必ず守らなければならないルール以外はかえって皆を混乱させるだけなため、細かいルールはほとんどない。日本人から見てアメリカが自由に見えるのはそのためだろう。その一方で、幼い頃から守るべきルールを徹底して守らなければ容赦しない厳しさが有る。つまり、日本の厳しさはルールの多さであり、アメリカの厳しさは徹底して守ることにあり、厳しさの意味が違うのだ。

最後に、

私たち４人のホストファミリーは、メキシコ系、中国系、タイ系など様々でした。アメリカには民族や言語、文化や考え方が様々な人が住んでいます。今回のNagoya Dayもそういった多様性を認め合い、日本人やその文化や考えを理解してもらう上で、大変意義のある活動だと思いました。

私は将来アメリカの大学や大学院で生物や化学の研究をしたいと思っています。そのきっかけとなる機会を与えて下さった名古屋市とロサンゼルス市に心から感謝申し上げます。私たちを送り出す準備をして下さった名古屋市国際交流課の皆様、受け入れて下さったＬＡＮＳＣＡやホストファミリーの方々のお蔭で、貴重な体験をすることができました。今後も名古屋―ロサンゼルス交歓留学を通してアメリカのことを学び、そして両市のために貢献していきたいです。

■派遣事業を振り返って

「第２７回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業を振り返って」

名古屋市立緑高等学校 教諭 吉岡千花

平成２６年７月２９日（月）から８月１２日（火）までの約２週間、第２７回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業の引率者として、派遣生４名と共に、とても有意義な体験をすることができました。以下、事前の準備を含め今回の派遣事業を振り返りたいと思います。

事前研修会・名古屋市役所表敬訪問

出発前の事前研修会が７月５日（土）に行われました。午前は派遣生徒自己紹介、当事業の主旨・概要のなどの説明、前回派遣生徒からの助言、旅行手続きを含めた事前準備に関する内容でした。午後はホームステイで必要な英語表現を学んだり、現地で披露する出し物の最終確認をしたりしました。生徒４名はすぐに打ち解け、出発に向けて順調に準備をすすめていくことができました。

７月２３日（水）には名古屋市役所を表敬訪問しました。国際交流課、教育委員会の方々から姉妹都市の歴史や派遣事業に込められた期待を伺い、また生徒自身も自分の考えや希望を語っていくうちに、名古屋市の高校生代表としての責任感がさらに高まったようでした。

ロサンゼルス到着・ホームステイ

７月２９日（火）昼、成田を経由しロサンゼルスに到着しました。空港では、ＬＡＮＳＣＡの委員長ワインバーグさんを初め、ホストファミリーの方々が、ポスターや横断幕を掲げて、出迎えて下さいました。まるで昔からの友人を待ちかねていたかのような歓迎ぶりに、わずかにあった不安が一瞬で消えさり、これから過ごす２週間が素晴らしい体験になると確信しました。

２週間のホームステイ体験で、生徒達はアメリカの多様な文化を目の当たりにし、価値観が大きく揺さぶられました。ホストファミリーのルーツは、メキシコ、タイ、中国、アフリカと様々で、家庭内で話している言葉や食事も異なっています。家庭環境や教育方針の違いも生活の中に表れています。違いを受け入れる大きな土壌に自分自身が認められて存在し、個性を発揮していく解放感とそれに伴う責任感を感じ取ることができたのではないかと思います。どの家庭も、名古屋の生徒たちを家族の一員として迎えいれ、等身大のアメリカ生活を体験させてくださいました。心から感謝しています。

ダウンタウン・マグネット・ハイスクール体験入学

新学期が始まる直前の新入生オリエンテーションに参加させていただきました。授業、クラブ活動、進路相談、カウンセリングなど高校生活についての説明をこの学校の入学生徒ともに聞くことができました。一緒にゲームに参加したり、クラスディスカッションに参加したりしているとこれからここで学んでいくのではという錯覚に陥りそうでした。最終日の午前、名古屋市長がこの学校を訪問されました。派遣生徒達も日本の生徒会に似た組織である Leadership のメンバーと共に歓迎の横断幕を準備し、名古屋の方々をお迎えしました。午後は Cultural Exchange Potluck Party として派遣生のお別れ会を開いていただきました。こちらも Leadership が中心となって準備・企画したもので、参加者は食べ物を持ち寄って集まり、派遣生徒とホストの生徒がそれぞれ工夫を凝らした出し物を披露しました。名前通り、様々な文化を体験できるとても楽しい盛大なパーティーでした。ＬＡＮＳＣＡの事務局をされていて、この学校のスクールカウンセラーでもあるペレー先生にはこの訪問で非常にお世話になりました。過去の名古屋への派遣で引率者として来日された経験のある方なので、さまざまな状況にも詳しく、きめ細やかな対応をしていただきました。

ロサンゼルス市役所・市議会訪問

８月８日（金)、派遣団としての大きな役割の一つといえるロサンゼルス市役所・市議会訪問を行いました。市役所のセキュリティを通ると、市議会議場へと案内されました。そこでは名古屋との交流の歴史と将来の発展に向けての連携強化に関する議題が話されており、派遣高校生もその一役を担っているということで紹介されました。その後、名古屋市の河村市長とロサンゼルスのラボンジ市議会議員が対面する場に居合わせ、ラボンジ議員の部屋へ案内していただきました。その後、市役所内を見学し、展望台からロサンゼルスの街を一望しました。

名古屋デー・二世週パレード

８月１０日（日）午前はビバリーヒルズにあるグローブというショッピングセンターで開催された名古屋デーのイベントをお手伝いしました。さまざまな日本文化を紹介するブースの中で、生徒たちは浴衣体験、書道体験、折り紙体験のコーナーを任されました。興味津々で手元を見つめる子どもたちや感嘆の声をあげて記念写真を撮るお客さんたちの様子に、改めて日本文化の素晴らしさを感じることもできました。午後はリトルトーキョーに移動し二世週祭のパレードに全員浴衣を着て参加しました。大勢の観客が見守る中、消防車に乗ってリトルトーキョーを一周しました。二世週祭は、毎年この時期に行われる日系アメリカ人のお祭りで、生徒たちはアメリカに根付いた日本文化を体験することができたと思います。

バーベキューパーティー・市内見学

ロサンゼルス滞在中には、アメリカが世界に発信するエンターテイメント文化を体

験する機会もありました。８月２日（土）にはＬＡＮＳＣＡ委員ランゲンバークさん宅で、バーベキューパーティーを開いていただきました。ダウンタウンに近い、昔からの閑静な住宅街にあるお宅で、裏庭にはプールや鯉が飼育されている日本庭園があり、アットホームな雰囲気で食事と会話を楽しみました。グリルで焼いたハンバーグを好みの野菜と共にバンズにはさんだハンバーガーや、熱々のソーセージに玉ねぎとケチャップたっぷりのホットドック、レモンの味がしっかりと出ている自家製レモネードは小説や映画の中のアメリカそのものでした。７月３１日（木）午後はハリウッドの街を見学しました。有名な俳優達の手形を探したり、星のマークと共に道路に埋め込まれている有名人の名前を探したりしました。また、オスカー賞授賞式で使われる劇場の前で記念写真を撮りました。両側には歴代の作品賞が刻まれている階段で映画スターの気分に浸りました。その後、歴史的な映画館で最新の３Ｄ映画を鑑賞しました。８月１日（金）にはユニバーサルスタジオを訪れました。映画スタジオを巡るツアーに参加したり、動物達の人間顔負けの演技やハリウッド映画の代名詞であるスリル満点のアクションを楽しんだりと本場ならではのスケールの大きな娯楽文化を体験しました。８月４日（月）にはゲッテイ美術館で芸術を鑑賞しました。５日（火）にはグリフィスパーク天文台、６日（水）にはサンタモニカのビーチに行き、海と山が身近にあるロサンゼルスの自然や眺望も楽しみました。また、８日（金）はカリフォルニアサイエンスセンターで帰還したエンデバーの展示もみることができました。

帰国

空港のロビーで見送りの方々にお別れの言葉を述べた後も、なかなか前に進むことができませんでした。一緒に話したいことや行きたいところがまだまだたくさんあって、これでさようならだということが信じられない気持ちでいっぱいでした。「これはさようならではない。絶対また会おう。これからも連絡し合おう。」とグループハグの輪の中でホストの一人がみんなの声を代弁してくれました。目には涙が浮かんでくるけれども、最後は笑顔で、と姿がすっかり見えなくなるまで何回も振り返って手を振り続けていました。

このように一瞬一瞬が特別な意味を持つ、素晴らしい２週間でした。見るもの聞くもの、体験する全てのことが若い感性を刺激し、目の前にある広く深い世界へ希望を持って進んでいく原動力となりました。そして、姉妹都市という強い友好関係が育んできた人々の心の絆は若い世代に確実に受け継がれたと思います。今後もこの派遣事業がますます発展し、さらに多くの高校生が異文化体験を通して世界を広げ、成長する助けとなることを心から願っております。

最後になりましたが、今回の派遣事業が無事、成功のうちに終了しましたのも、ホストファミリーの方々、ＬＡＮＳＣＡの関係者、名古屋市国際交流課、教育委員会、全ての皆さまのご支援、ご協力のお陰です。心から感謝を申し上げます。

第２７回ロサンゼルス交歓高校生派遣事業報告書
主　　催：名古屋市
発行・編集：名古屋市
―この印刷物は再生紙を利用しています。―